

# 国語 思考力、判断力、表現力等を育成し、



## POINT 1 態度

### 子どもが主体的に学習に取り組むための単元計画の作成

学習を進めていく上で「子どもたちが自分の能力を理解し、それをどのように伸ばしていくかを自己調整できるようにする」ことを大切にしている。子ども一人一人の特性や進度に応じた学習環境を整えることで、思考力、判断力、表現力等の育成の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現することができるのではないだろうか。

そのために日頃実践していることを紹介する。

#### 1 学習活動一覧の提示

国語科での単元の学習活動を一覧にしたものを配布している。「辞典で調べる」のような基本的なものから、「視点を変えて読んでみる」など、物語や説明文の学習で行ってきた学習活動とその手立てなどが書かれており、子どもは後述する単元計画の作成の際に活用している。

No.	学習活動	具体的な内容
1	辞書で調べる。	
2	5w1hで考える。	
3	当時の社会を調査する。	
4	問いを立てる。	
42	題名から考える。	

【学習活動一覧表例】

計画	内容	実施	振り返り
課題	太宰治の書き方や表現技法とは	太宰治の表現技法と効果、書き方とは	
学習活動	スプレッドシートと教科書を見てまとめる	○	スプレッドシートを参考にして教科書で確認しながらノートにまとめられた。太宰治は多くの表現技法(主にオノマトペと比喩)を使っていること、書き方は強調や印象付け(短い一文や言葉遣い、表現技法)が多いことが分かった。
課題	走れメロスの時代や世界について	走れメロスの時代と世界観について	
学習活動	教科書の言葉やインターネットから調べる	○	二次創作を作る上でどのような時代なのかを知るために、教科書の言葉や世界観とインターネットで調べた内容を関連付けてみてまとめた。走れメロスは、ギリシャ神話でもとで、古代ギリシャに起こったとされていることに多く関連していることが分かった。(備主政、名前の由来、ダモクレスの剣)

【子どもが作成した単元計画（計画の変更時は赤字で記載）】

#### 2 単元計画の作成

子ども自身が、学習活動を含めた単元計画を以下の方法で作成するようにしている。

- ・ 1時間の課題を教師側で設定し、課題を解決するために必要だと思う学習活動をグループもしくは個人で考える。
- ・ 考えた学習活動を列挙し、取り組む順番をグループもしくは個人で考える。

教師は作成された単元計画を見て、課題や学習活動に無理がないか、目標を達成できるかなど、適宜カウンセリングを行い、子ども一人一人の進捗状況を把握する。そうすることで、子どもたちが活動計画に沿って主体的に行動する中でも、身に付けさせたい資質・能力にどのように向かっているかを見取ることができるだろう。また、設定した目標に対して取組が不十分である子どもに気付き、必要な支援を講じながら活動を進めていくこともできると考える。

このように、子どもが主体的に単元計画を作成し、教師とともに学びを振り返りながら学習を進めていくことで、自分の苦手を理解し、自分自身で学びを調整しながら、学習に前向きに取り組む子どもを育むことができるだろう。

# 子どもの主体性を促進する授業

鹿追町立瓜幕中学校 教諭 木村 翔平



## POINT 2 思・判・表

### 子どもが主体的に取り組む言語活動の在り方

子どもたちの中には、書くことや読むことに苦手意識がある子もいるだろう。文章を読むことへの抵抗感や表現することへの苦手意識を少しでも和らげるために、私が実践している評価基準の提示方法や言語活動の設定について紹介する。

#### 1 評価基準の提示（ルーブリック）

子どもが言語活動に取り組み、課題作品を作成していく中で、自ら深めたり調整したりするために評価基準を提示している。課題作品のどの部分を評価するのかを具体的に提示することで、課題作品をどのように作成するのかを子ども自身が考え、必要な情報収集を行い、主体的に学びに向かうことが考えられる。

到達度を明記	i. 元の作品から変更点が多少見られる。
	ii. あとがきにおいて作品の変更した部分の内容について触れている。
	iii. 参考資料が不十分ではあるが記載されている。
	i. 元の作品からの変更点や加筆が多少見られる。
ii. あとがきにおいて作品の変更した部分についての根拠がある。	
iii. 参考資料がある程度記載されている。	
i. 変更点や加筆した点が多く見られる。	
ii. あとがきにおいて作品の変更した部分についての根拠が明確で説得力がある。	
iii. 参考資料が十分に記載されている。	
i. 変更点や加筆した点が多く見られ、読者に新鮮さと驚きを与えることができる。	
ii. あとがきにおいて作品の変更した部分にもとの作品以外からも根拠を出しており、説得力が十分にある。	

【物語の二次創作を言語活動に設定した際のルーブリックの例】

#### 2 柔軟な言語活動の設定

教師が言語活動を制限して設定するのではなく、子どもが主体的に選択できるよう設定する。例えば、文学的な教材を取り扱う際には、「後日談の作成やリライトを行う」のではなく、「二

次創作」を課題とすることで、子どもは後日談、リライト、前日譚、現代版など様々な形式の中から取り組みたいと思える形式を選択し、主体性をもって言語活動に取り組むことができるだろう。言語活動やそれに対する評価の見取りについては、「あとがき」を作成させるなどして見取ることもできると考える。

表現する媒体についても、子ども自身が最も取り組みやすいものを活用して、一人一人の目的に合わせて学習用端末や作文用紙、画用紙、模造紙などを選択できるようにしている。

また、提案や広告などの言語活動も同様で、子ども自身が最も目的に合うと考える方法や媒体を選択できるよう、目標や評価基準を設定している。

例えば、実際に子どもが企画したイベントの「広告」を作成する授業では、ポスターを作製した子ども、InstagramなどのSNSを活用する方法を提案した子ども、ラジオなどのメディアを活用する方法を提案した子どもなど、目的に合わせて多様な媒体を活用する姿が見られた。

このように、自分で活動や媒体などを主体的に選択できる授業を積み重ねていくことで、書いて表現することが苦手な子どもも、自分が得意な媒体やこれまでの様々な教科での学びを生かして取り組む様子が見られた。また、教科書の文章を読むことに抵抗感がある子どもも、自身が表現したいことの根拠を探す過程で、論文や世論調査などの様々な文章を積極的に読む姿が見られた。